

健康・福祉

keyword

- 授業研究
- 課題解決的学習
- 体力向上支援
- 睡眠教育
- 教師教育



辻 延浩
Nobuhiro Tsuji

大学院高度教職実践専攻
教授

【プロフィール】

● **専門分野**

・保健体育科教育, 教師教育

● **略歴**

- ・1986年 滋賀大学 教育学部 卒業
- ・1988年 兵庫教育大学 学校教育研究科 修了
- ・1989/04-1992/03 大津市立 瀬田北小学校 教諭
- ・1992/04-2004/03 兵庫教育大学 教育学部 附属小学校 教諭
- ・2004/04-2005/03 滋賀大学 教育学部 講師
- ・2005/04-2007/03 同 助教授
- ・2007/04-2010/03 同 准教授
- ・2010/04-2017/03 同 教授
- ・2017/04- 同大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 教授

【主な社会的活動】

● **所属学会**

- ・日本体育学会
- ・日本教科教育学会
- ・日本スポーツ教育学会
- ・日本睡眠学会
- ・日本教師教育学会

● **委員**

- ・滋賀大学教育学部・滋賀県教育委員会地域教育連携推進会議 委員
- ・全日本大学準硬式野球連盟 理事

【代表的な研究テーマ】

- **睡眠教育研修モデルカリキュラムの開発**
- **教育実習生の体育科授業実践力の向上に関する研究**

課題解決に役立つシーズの説明

下記の2つの研究は小学校現場の体育・健康教育実践の改善に役立つ。

【1】幼・小・中学校における睡眠教育研修モデルカリキュラムの開発

幼・小・中学校を対象とした睡眠の教育に関わる研修モデルカリキュラムを開発・実践し、その効果を検討した。①高島モデル: 保育園および幼稚園の園児と保護者に、「毎日同じ時刻に起床すること」「朝起きたら太陽の光を浴びること」の重要性を伝える教具として、着ぐるみ(おはよちゃん)と紙芝居(あさひをあびてスイッチオン)を作成し、保育に活用した。②大津モデル: 睡眠の科学的知見の研修と睡眠教育プログラム・教材開発(活用)の研修をもとに、小学校体育科(保健領域)および中学校保健体育科(保健分野)で睡眠の授業を実施し、成果が得られた。

2年間の取り組みによって、保幼・小・中学校における睡眠教育に関わる研修プログラムが整備された。特に、小学校では教科(体育科)と学級活動および総合的な学習の時間におけるプログラムが開発され、学校や児童の実態に応じて実践的に使い分けることが可能となった。



幼稚園・小学校における睡眠教育実践の様子

<平成22・23年度独立行政法人教員研修センター委嘱研究報告書, 代表: 滋賀大学 辻延浩, 2011, 2012年>

【2】教育実習生の体育科授業実践力の向上に関する研究: 教材分析力, 学習指導案作成力, 授業実践力, 授業観察力の関係を中心として

本研究では、学校教育教員養成課程体育・健康教育コースに所属し、保健体育教師を志望している学生1名を対象に、教材分析力を身につけさせ、その前後における学習指導案作成力, 授業実践力, 授業観察力の変容をもとに、教材分析力の与える影響やこれらの能力を向上させる有効な手立てについて検討した。得られた結果の概要は以下のとおりである。

- 1) Y 学生は定期行物として発行されている教育専門誌(大修館書店出版『体育科教育』)を読み、年代ごとの教材を分析し、教材を使い分ける視点を明らかにすることにより、教材に関する知識を高めることができた。
- 2) 学習指導案作成力の変容から、教材分析力の習得前は46.7%, 習得後は60.0%と、「概ね満足できる」基準の程度にしか達し得なかったものの、13ポイント強の向上が認められた。内容に関しても、目標の明確化や具体的な記述の増加などがみられるようになり、Y 学生の教材分析の能力が高まったことによって学習課題に応じた教材の選択や活用方法、具体的な支援の方法などを工夫することにつながったと考えられる。
- 3) 授業実践力においては、「学習指導」場面の割合が減少し、「運動学習」場面の割合が増加した。これは、学習目標が明確になったことにより、学習内容もはっきりしたことから、教師の一方的な指導が減少したことが考えられる。また、教材や例示の活用なども意図的なものとなっており、教材分析力が影響していると推察される。
- 4) 授業観察力においては、観察記録の記述内容の質の変化が認められた。すなわち、5月時では、授業の基礎的条件についての内容が中心となり、記述の表現においても抽象的なものが多かったのに対し、11月時では、授業の内容的条件についての内容も含まれ、具体的な記述となっていた。これらは、Y 学生が教材に関する知識を身につけたことにより、運動の特性や教材の特徴、役割などの理解度が深まったことが影響していると考えられる。
- 5) 今後の課題として、本研究では授業についての知識(吉崎, 1987)のうち、教材内容についての知識(CK)を中心に分析しており、教授方法についての知識、生徒についての知識およびそれらの知識が交わり合う複合領域の知識に関しては分析していないため、授業実践力を向上するにあたっては授業についての知識全体を対象として検討することが求められる。また、調査対象者の数を増やして一般的な傾向を明らかにすること、授業実践力を向上させるために有効とされる具体的な手立てをプログラム化することも重要である。

<滋賀大学教育学部紀要 I : 教育科学, 第67号, pp.151-167, 2018年>

企業・自治体へのメッセージ

体育・スポーツ教育ならびに健康教育に関する共同開発・共同研究を希望します。